

2024年度
特定行為研修の組織定着化支援事業
進捗状況等全体の総括

湘南医療大学 保健医療学部
川本 利恵子

本事業の目的

看護師の「特定行為研修の受講」と

「特定行為研修修了者の活動を推進」する取組を組織的かつ継続的に行うことで特定行為研修修了者数の増大と円滑な活動環境整備による医療の質向上を図る。

事業参加1年目の施設数	41施設
事業参加2年目の施設数	57施設
	計 98施設

(2024年12月23日時点)

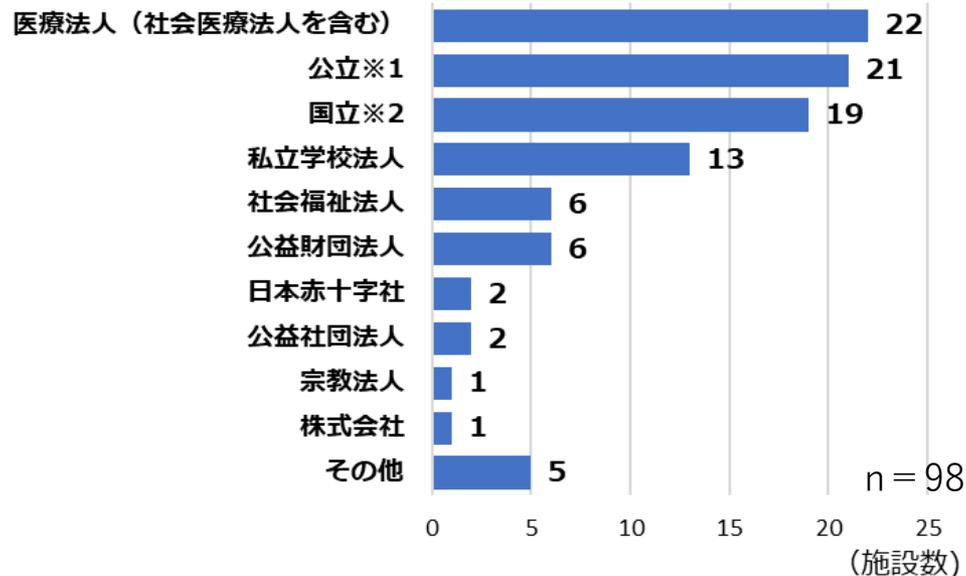
ワークショップ 開催内容

目的：本事業の参加施設の進捗状況を共有、取組を進める上での課題の解決や円滑な取組を推進する

回数	グループワークのテーマ
1回 (1年目)	① 組織における受講者支援 ② 修了者の活用に関する課題と解決方法について
2回 (2年目)	① 組織における受講者支援 ② 修了者の活用に関する課題と解決方法について
3回 (全体)	<ul style="list-style-type: none">・ 本事業において受講した看護師の特定行為研修修了までの養成計画について <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><ul style="list-style-type: none">・ 本事業で共通科目のeラーニングを受講する看護師に対する<ul style="list-style-type: none">・ 演習、実習の履修機会・ 特定行為研修に進む看護師の選抜方法・ 本事業で受講した科目の履修免除 など</div> <p>※時間があれば下記のテーマについて話し合う</p> <ul style="list-style-type: none">・ 特定行為研修修了者活用のための体制について

2024年度 本事業に参加した病院種別・病床数

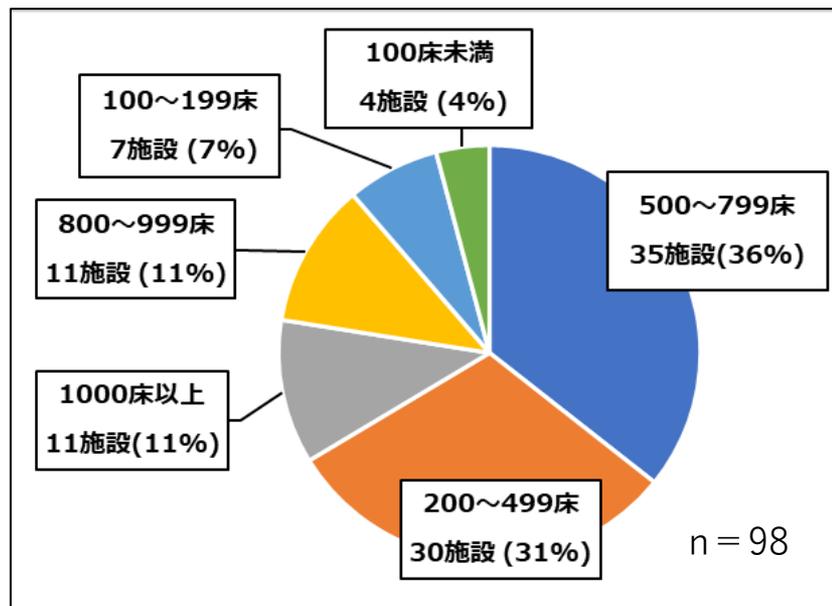
■病院種別



※1 一部事務組合、地方独立行政法人、公立大学法人を含む

※2 労働者健康安全機構、地域医療機能推進機構を含む

■病床数

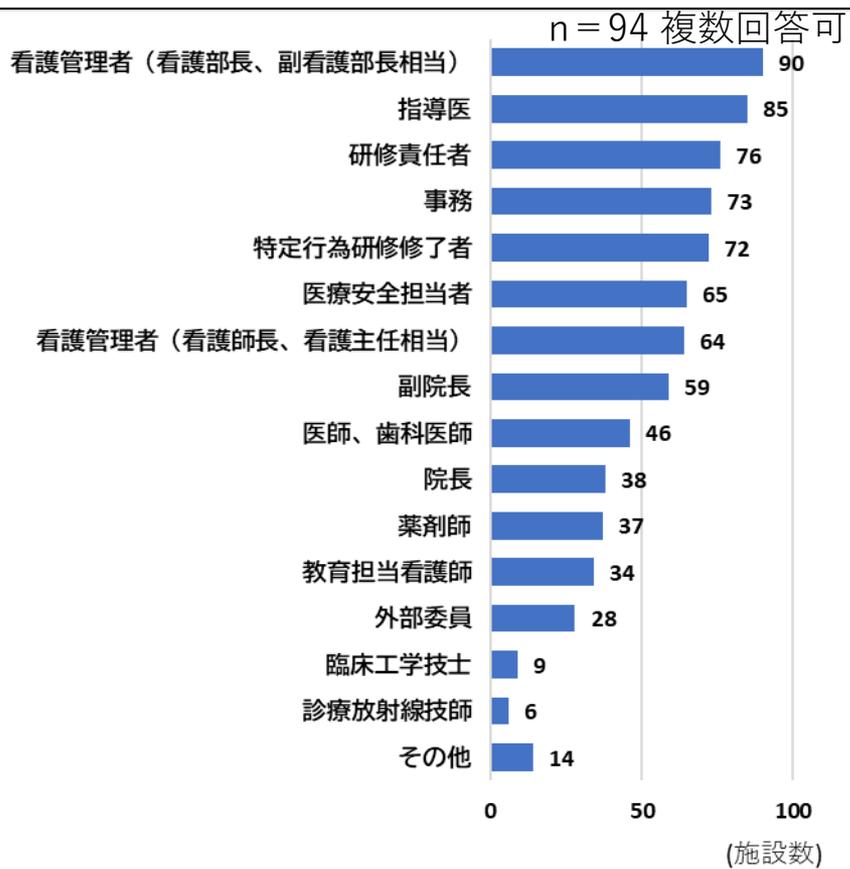


資料：第1、2回取組状況報告書結果より

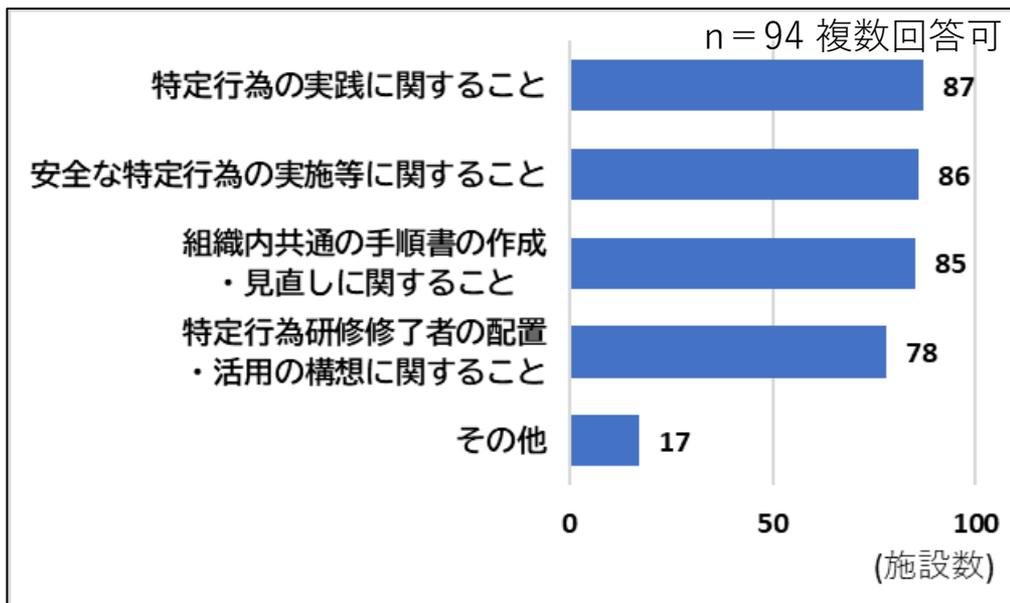
参加した医療機関は医療法人、公立、国立の順で多く
病床数は500～799床、200～499床、800床以上の順が多かった。

特定行為研修推進委員会の設置について

■ 委員構成



■ 特定行為研修推進委員会での検討内容

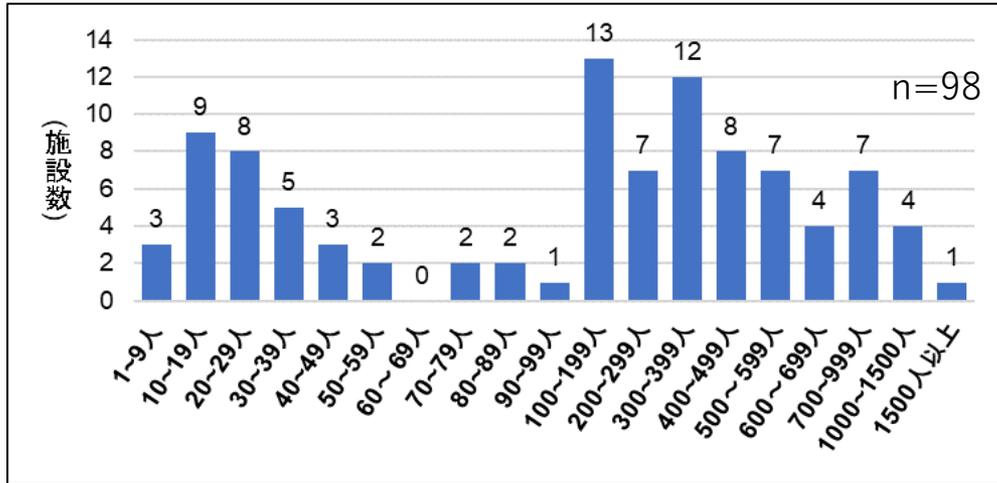


資料：第1、2回取組状況報告書結果より

委員構成は看護管理者、指導医、研修責任者の順で多く
特定行為研修推進委員会の検討内容は特定行為研の実践に関すること、
手順書の作成・見直しに関する検討内容が多かった。

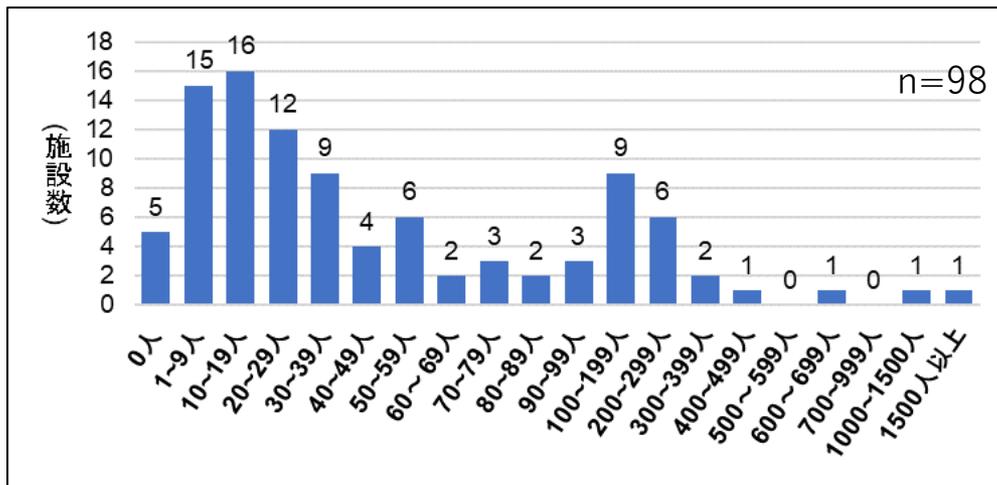
本事業においてeラーニングによる 共通科目を受講した看護師について

■対象者数



100~199人の看護師を対象とした施設が13施設と多く、次いで300~399人が12施設であった。

■12月時点で受講している人数



実際に受講した看護師の人数は10~19人、1~9人、20~29人の順で、30人以下の施設が多かった。

本事業のeラーニングによる特定行為研修 共通科目を受講した看護師について

➤ 受講対象の看護師について

卒後3年目以上の看護師とした47施設が最多であり、次に施設の定めたラダーレベルに相当する看護師とした14施設の順が多かった。

➤ 受講決定方法

本人の希望「自主的受講」とした64施設が65%であり、次に「上司の推薦で決定した」とした36施設の順が多かった。

➤ 受講した共通科目 ※要件：1科目の受講(演習・実習は除く)の終了
「フィジカルアセスメント」は82施設、「臨床推論」は75施設、「臨床病態生理」は54施設の順が多かった。

eラーニング受講時間に関して

本事業では、「共通科目の受講が適正な労働時間の取り扱いとなるよう配慮する」ことが示されている。

今年度、独自に特定行為研修の体制整備に関して 組織で決定した事項

- 就業時間内に受講を可能とした。(12施設)
- クリニカルラダー研修に組み入れた。(5施設)

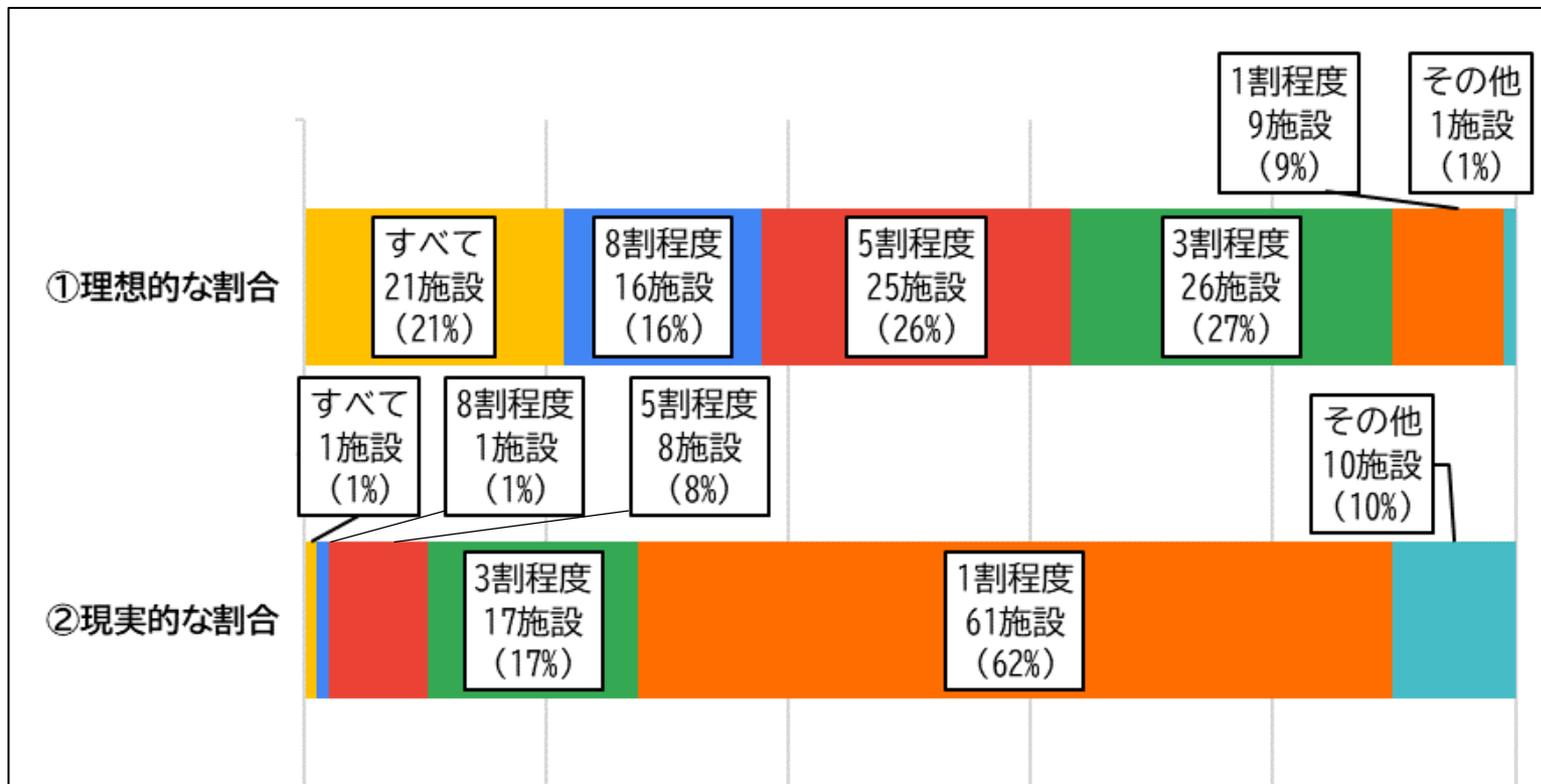


今年度、取組を推進するうえでの課題、困難な事項

- 受講時間の確保 (49件)

共通科目(250時間)の受講に関して

■所属施設でどの程度の割合の看護師に履修してほしいと考えるか

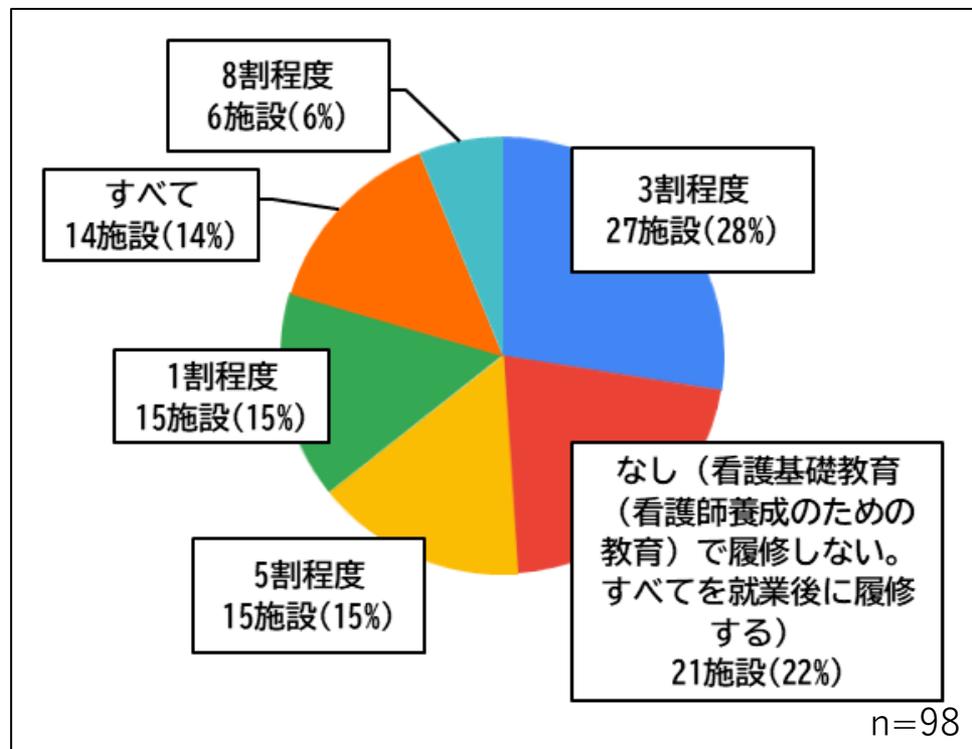


資料：第3回取組状況報告書結果より

理想的にはすべての看護師に履修してほしいと考える施設は21施設(21%)であるが、現実的にすべての看護師が履修できると考える施設は1施設(1%)であった。

共通科目(250時間)の受講に関して

■看護基礎教育で共通科目のどの程度を履修してほしいと考えるか

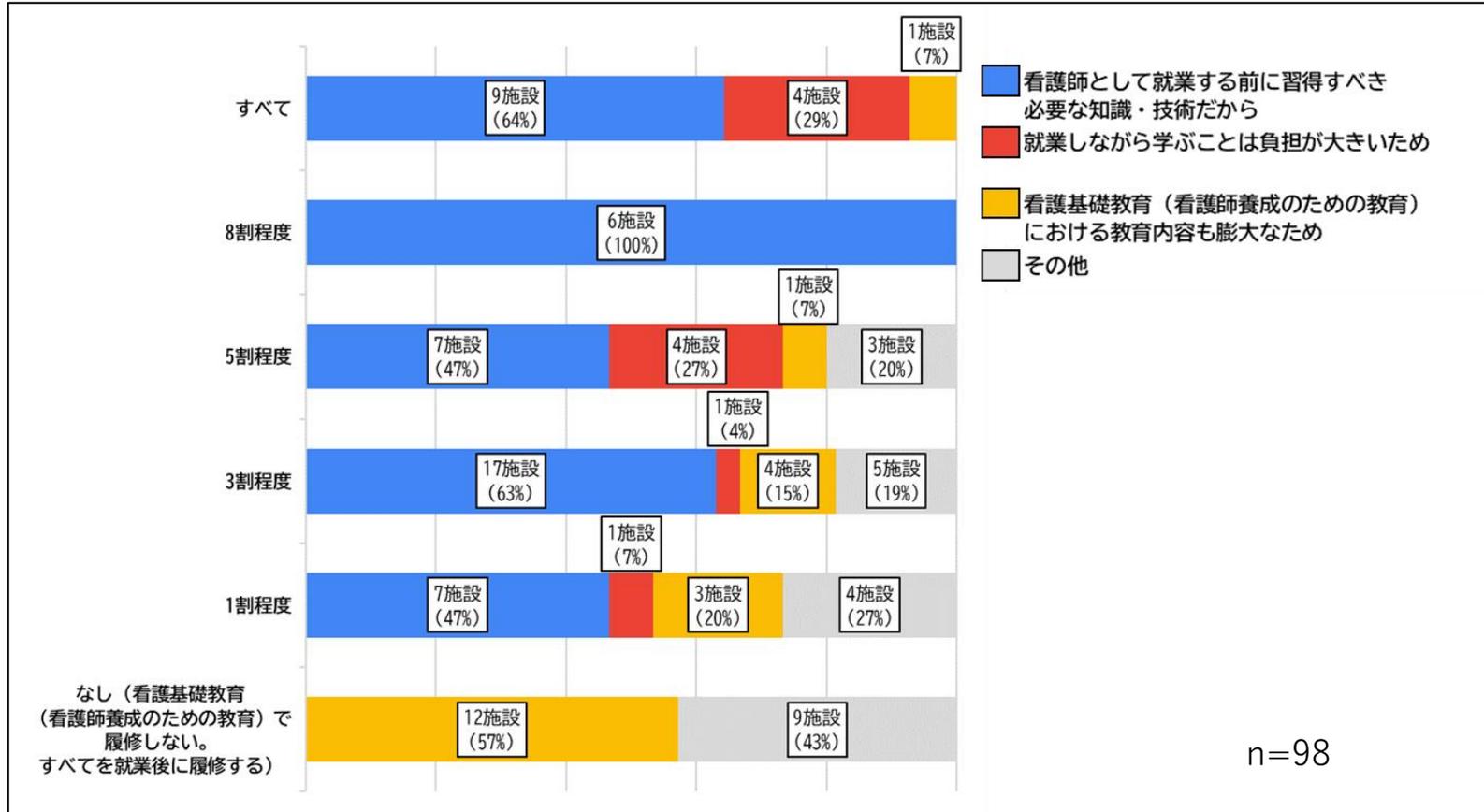


資料：第3回取組状況報告書結果より

就業後にすべての共通科目を履修するままで良いと考える施設は21施設(22%)、それ以外の77施設(77%)は、共通科目の全部あるいは一部を看護基礎教育で履修してほしいと考えていることがわかった。

共通科目 250時間の受講に関して

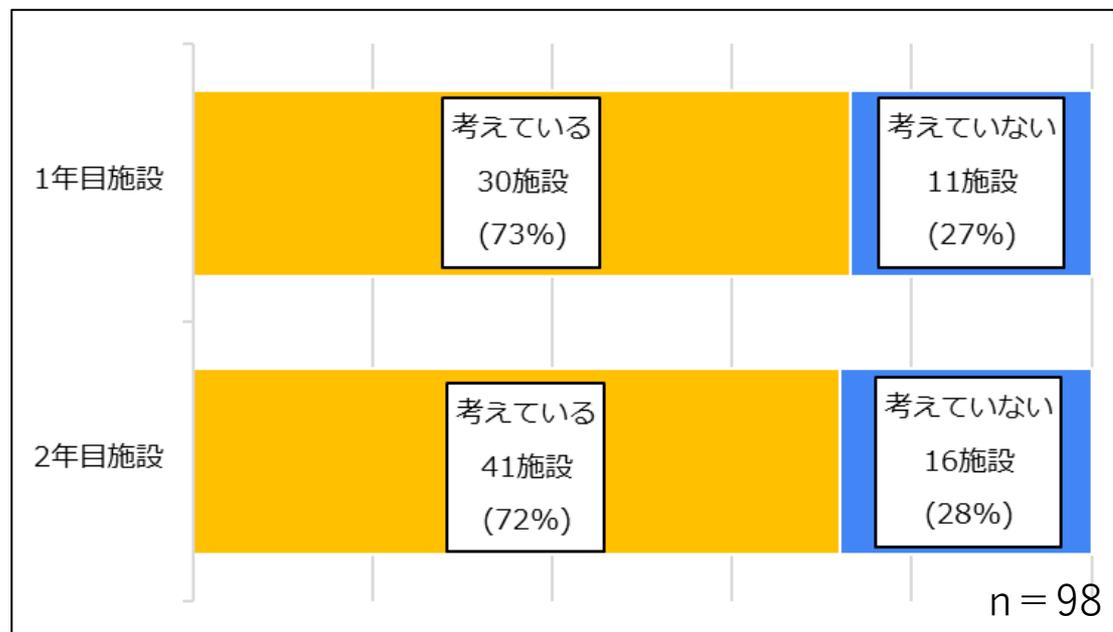
■看護基礎教育でどの程度を履修してほしいかの考えの理由



共通科目のすべてあるいは一部を看護基礎教育で履修してほしいと考える施設の多くは「看護師として就業する前に習得すべき必要な知識・技術だから」という考えであった。

すべてを就業後に履修した方がよいと考える施設の理由は「看護基礎教育における教育内容も膨大なため」が多かった。

本事業で共通科目を履修した受講者が 将来的に特定行為研修を修了するまでの計画について

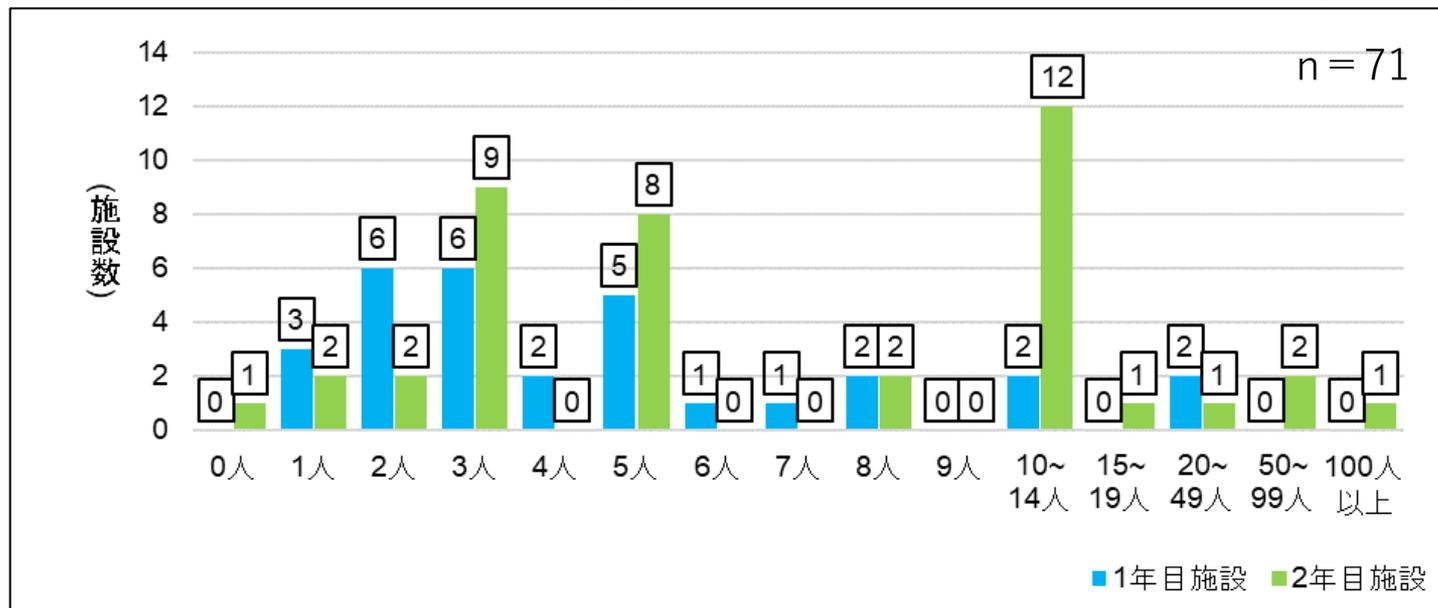


資料：第3回取組状況報告書結果より

本事業参加1年目、2年目の7割以上の施設が、本事業でeラーニングを受講した看護師を特定行為研修修了者として育成する計画があると回答した。

本事業受講者の特定行為研修修了までの 育成人数の計画について

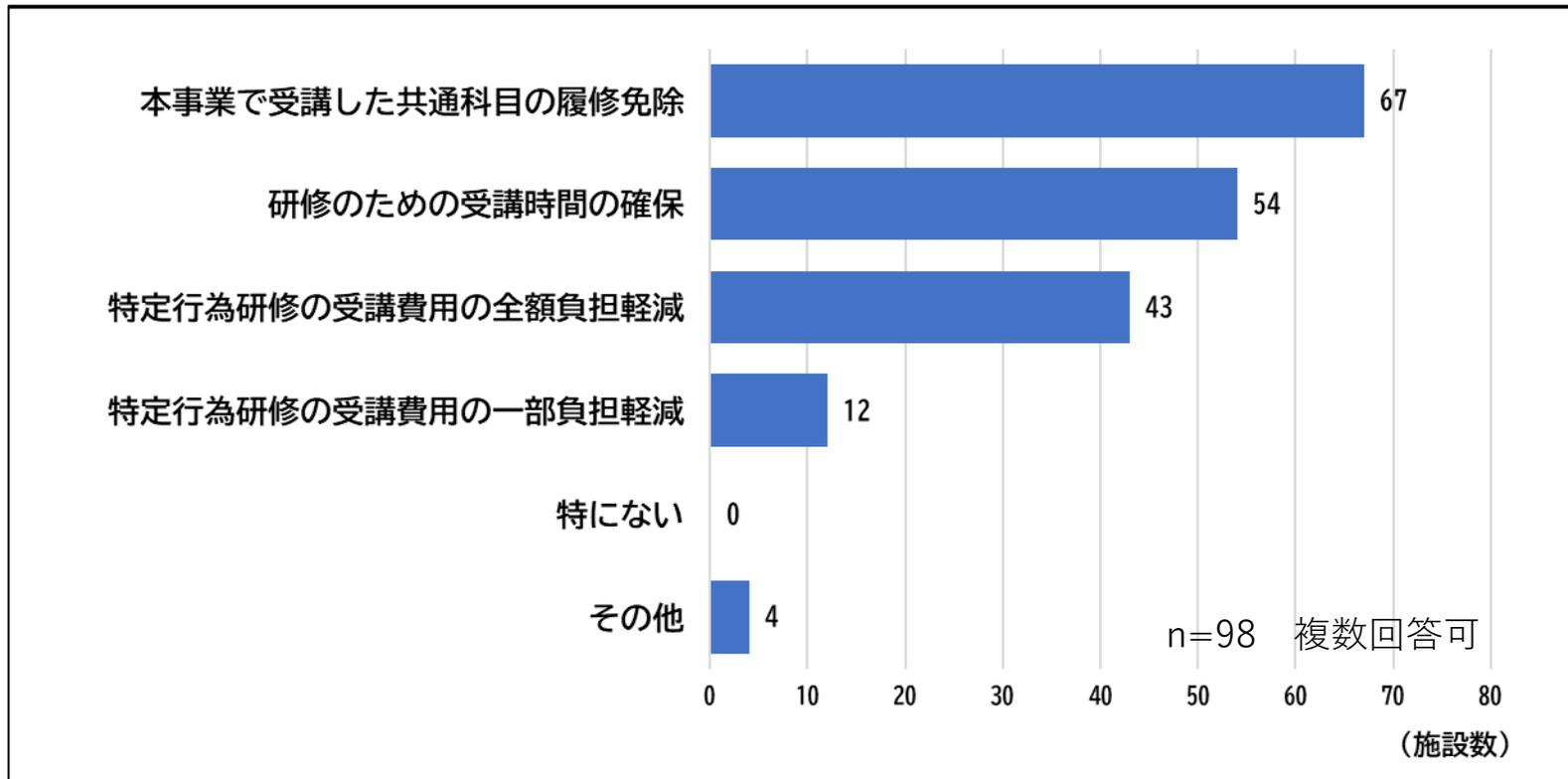
■ 本事業を今年度受講する看護師から何人研修修了者として養成するか



資料：第3回取組状況報告書結果より

事業参加1年目の施設は2~5人と回答した施設が多く、
事業参加2年目の施設は3~14人と回答した施設が多かった。
全参加施設においては1~5人と6割の施設が回答していた。

参加施設が特定行為研修を修了しやすくするために 考えていること

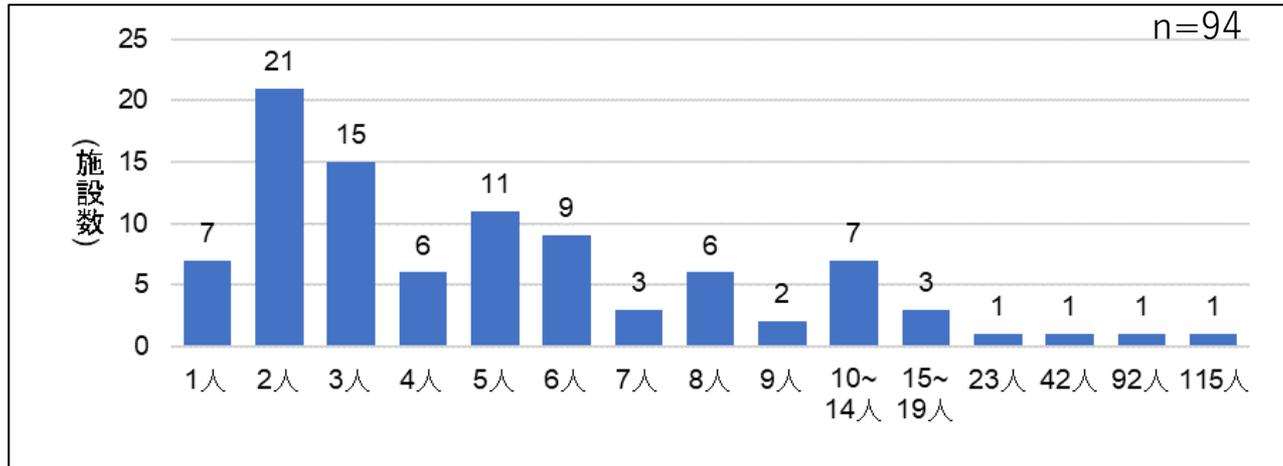


資料：第3回取組状況報告書結果より

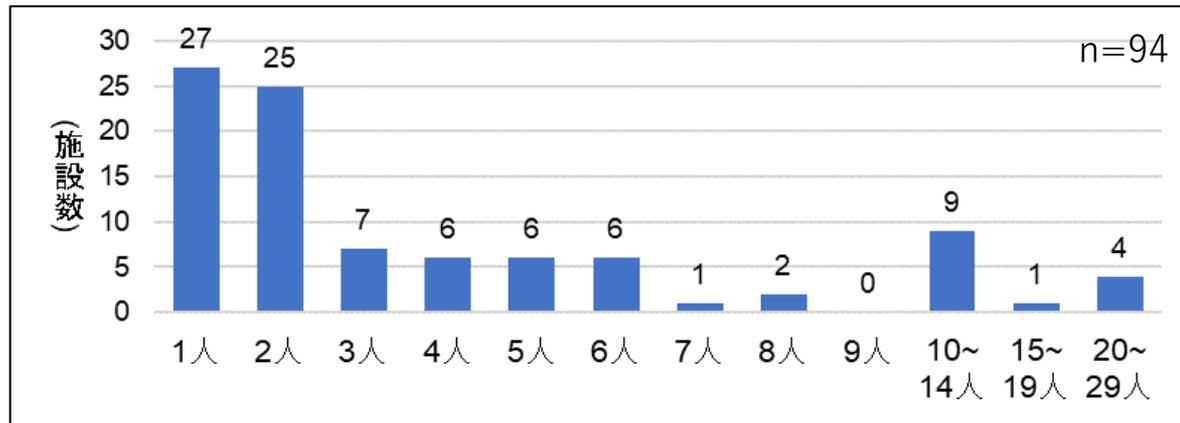
本事業で受講した共通科目の履修免除を考えている施設が67施設(68%)と最多で、次に研修のための受講時間の確保、特定行為研修費用の全額あるいは一部負担軽減を考えていた。

メンターの配置について

■メンター数



■修了者に対するメンター数



資料：第3回取組状況報告書結果より

メンターの配置人数を2~3名としている施設が多かった。

修了者に対するメンター数は、1名のメンターで1~2名の修了者を支援している施設が過半数を占めた。

メンターを配置したことによる効果

修了者にとって
すぐに相談できる環境であり
安心して実践ができる

- 技術実践時の心理的安全性の担保ができ、技術習得が早い。
- 手順書作成等の指導を受けてスムーズに実践を開始できる。
- 一緒に活動することで実践件数が増えている。
- 研修では学べなかった実務に即したアドバイスが受けられる。
- 他部署・他職種との連携が円滑にできる。
- フォローアップ研修、メンタルサポートの実施ができる。
など

2024年度 本事業のまとめ

- 特定行為研修の共通科目の一部もしくはすべてを看護師に履修してほしいと考える施設があり、本事業に積極的に取り組まれていた。
- 一方で、就業しながら250時間の共通科目を学習する「受講時間の確保」等の困難さが大きな課題となっていた。
- 参加施設の約7割の受講者が特定行為研修を修了するまでを計画しており、そのために「履修免除」「受講時間の確保」「受講費用の負担軽減」を考えていた。
- 修了者にメンターを配置することは、すぐに相談でき安心して実践できる環境づくりにつながっていた。
- 就業後に250時間の共通科目を学習することの困難さから、77%の施設が全部あるいは一部を看護基礎教育で受講することを望んでいることから、今後の実現可能性に関して検討が必要である。